

昭和41年8月1日

市健全財政を確立

赤字は四十年で解消

て、市庁舎の増改築、野球場、し尿処理場の建設、小中学校の改築、新澤工業高校の設置、母子健康

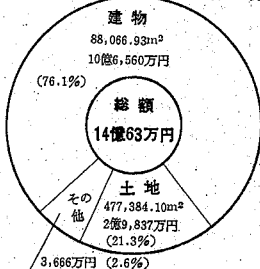
セクター・児童センターの設置など市庁舎の娯楽事業の一歩に完成して、市勢の伸張の基盤固めをしたため、昭和三十八年度の決算では一億七千五百九十九千の赤字が計上された。

これを昭和三十九年度から四十年一度までの三年で自主再建の計画で、

結果、経費の削減と努力のため、四十年度決算において健全ながなが黒字となり健全財政を確立することができた。

この間、市庁舎の皆さんに御協力に対し感謝申し上げます。

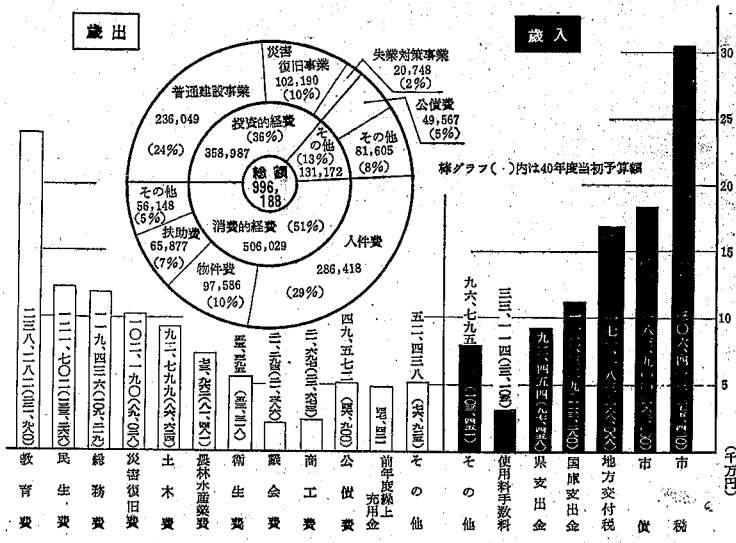
市有財産 (6月30日現在)



昭和40年度特別会計 (千円)

会 計 名	才 入	才 出	差 引
国民健康保険会計	129,917	121,948	7,919
買 屋 会 計	1,270	1,806	△ 536
と畜場整理資金会計	9,045	21,433	△ 12,388

昭和40年度決算の概況 (単位千円)



国保^{特別}会計も黒字
四十年度
決算 三年ぶりで健全化

国保特別会計も黒字
四十年度 三年ぶりで健全化

昭和四十年度の国保医療保健事業が去年年度に比し、財政危機を脱し、三十七年度以来三年ぶりに黒字に上った。

これは、収入面で例年へつていふ医療費増大等によって四十年度に於ては、保険料の収納も上昇して百八十八億円の収入増となつたこと、

国の財政援助で医療費の増加が各県国保の交

付事や交付額基準の引上げ等による結果、上乗率保費一人当たりの交付額が三億七千九百九十九万五千円にふえたこと、

一方支出面でも、総額の約三パーセントを、繰越金に比較し年間で七十七億四千四百円の増に上つたこと、

また、四十年度国保料は七百九十九万九千九百九十九円の黒字となつたことです。

か、この黒字は國庫交付金の超過交付額百七十七万円を合んでおり、それを四万円を合んでさなければなりません。また、四十一年度で債務負担費負担金過年度分として三百八十三万円六千円を収入財源に計上し、保険料の繰り上げ額を、よく制してあります。これに相當する額が四十年で收入に入されたもので、その分は見込まれた。結局、實際の黒字は二百四十三萬三千円となります。この黒字が四十一年度の國庫会計にプラスする。

今月は市・県
民税才二期の
納期限です。
八月三十一日
までに忘れず
に納税いたし
ましょう。